

草の根技術協力（草の根協力支援型）案件概要表

I. 事業の概要	
1. 対象国名	スリランカ
2. 案件名	スリランカきぼう国際学校で日本式特別活動（特活）を取り入れた新しい教育モデルを構築するプロジェクト
3. 事業の背景と必要性	スリランカでは学歴偏重で大学受験対策の詰め込み型、丸暗記型の教育がなされ、個人や地域社会の課題解決力や対応力が育ちにくい。日本には「知識及び技能の習得と思考力、判断力等の育成、体験活動重視の特別活動（特活）」があり、未来社会を切り拓くための資質・能力向上を目指している。自身や地域の問題を解決するためには協働性、社会性等を育む教育が必要であり、「思考力・実践力・共感力を持つ人間を育てる」を理念として設立されたきぼう国際学校（KIC）において、日本の特活を取り入れた実践型教育プログラムを導入し、学力偏重から脱して若者のエンパワーメントを促す教育モデルを構築する。将来的には近隣地域の学校へも影響が及ぶことを目指す。
4. プロジェクト目標	日本式の特別活動を導入することで、児童が主体的・対話的な学びを得られる機会が提供される
5. 対象地域	スリランカ北西部州クルネガラ県ポルガハウエラ地区デナガムワ村
6. 受益者層 (ターゲットグループ)	直接受益者：KICの教職員13名、初等部の児童57名、保護者100名 間接受益者：近隣の学校の先生や教育事務所のスタッフ
7. 生み出すべきアウト プット及び活動	<p><アウトプット></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学校の基盤を強化し、新たな取り組みとして特活を導入する体制を整える 2. 児童のコミュニケーション能力と課題解決能力向上を促す学級活動を導入する 3. 児童の協働性と社会性を育む学校行事が行われる <p><活動></p> <ol style="list-style-type: none"> 1-1. 特活の取り組み手法を学ぶ研修・勉強会を開催する 1-2. 年度毎の特活年間計画を策定する 1-3. 特活活動の説明・紹介を行う保護者会を開催する 1-4. 特活の活動事例をまとめた手引きを作成する 2-1. 児童による係や日直等のクラス内役割を導入する 2-2. 学級会や対話型・参加型授業の手法を学ぶ研修会を開催する 2-3. 学級会を開催し、児童主体のクラス運営や、学級会で決めた内容の実践を行う 2-4. 特活授業の授業参観を実施する（地域教育委員会・近隣学校を招く） 2-5. 年度毎の学級会年間計画表を作成する 3-1. 年間行事予定表を作成する 3-2. 先行実施中の農業体験の内容を改善・開催する（近隣学校を招く） 3-3. 新規学校行事を開催する（地域教育委員会・近隣学校を招く）
8. 実施期間	2025年3月～2028年3月（3年0ヵ月）
9. 事業費概算額	9,852千円

10. 相手国側実施機関 (カウンターパート)	きぼう国際学校 (KIC) ・ブライツムーンファンデーション (BMF)
II. 団体の概要	
1. 実施団体／指定団体	特定非営利活動法人日本スリランカ次世代育成サポート
2. 主な活動内容	国際教育支援事業、多文化社会理解促進事業、異文化交流事業を通して多文化共生による平和な社会の実現を目指す。これまでに講演会、ワークショップ、オンラインによるパネルディスカッション等を開催。2021年に沖縄SDGsパートナーとして登録。